

金沢市近郊 私立大学等の特色化推進プラットフォーム

## 令和2年度 事業報告書

令和3年10月11日

## ■目次

1. 金沢市 近郊私立大学等の特色化推進プラットフォームの全体概要 .....	1
2. 令和2年度の事業計画と目標値および実績 .....	2
3. 令和2年度 事業実績	
(1) 全体 .....	4
(2) ワーキンググループ別事業報告	
①共同 PBL 運営検討 WG .....	5
②単位互換検討 WG .....	6
③専門連携・産学連携研究促進 WG .....	7
④入学者促進 WG .....	8
⑤小中校・一般・企業向け学習支援 WG .....	9
⑥地元就職促進 WG .....	10
⑦リスクマネジメント検討 WG .....	11
⑧共同 FD/SD 事業 WG .....	12
⑨共同 IR 事業 WG .....	13
4. IR データ（抜粋） .....	14
5. 自己評価と達成目標・実績 .....	15
■参加大学等 .....	18
■協力自治体 .....	18
■協力産業界 .....	18

# 1. 金沢市 近郊私立大学等の特色化推進プラットフォームの全体概要

## 金沢市近郊 私立大学等の特色化推進プラットフォーム

(私大等) 金沢医科大学・金沢学院大学・金沢工業大学・金沢星稜大学・北陸学院大学・北陸大学・金沢学院短期大学・金沢星稜女子短期大学部・金城大学短期大学部・北陸学院短期大学部・北陸学院短期大学部・国際高等専門学校(自治体) 金沢市・白山市・野々市市・内灘町 (産業界) 金沢商工会議所・白山商工会議所・野々市商工会・一般財団法人北陸産業活性化センター

(2019.9.30現在)

### PFの特徴

- 石川県内には19自治体のうち、金沢市・白山市・野々市市・内灘町に全12私立大学等が集結
- 3市1町で県内総学生の約半数
- 人文・社会・医・薬・理・工・保健・家政・芸術・総合・新領域全分野をカバー(大規模総合大学と同等)

⇒学圏都市「学都金沢」を形成

### 現状・課題

- 大学等の課題**
  - 18歳人口減少に伴う入学者数の確保
  - 多分野集結の学園都市「学都金沢」の優位性の活用
  - 大学コンソーシアム石川内の私大としての多様性・独自性の発揮
- 地域の課題**
  - 石川中央都市圏(金沢市・白山市・野々市市・内灘町)がほく市・津幡町の活性化
  - 自然・教育・伝統文化・街並み・福祉充実・少子高齢化・人口流出・社会インフラの老朽化・交通ネットワーク・伝統文化産業の後継者の育成

### 協働体制

4自治体 → 意思決定委員会 → 運営委員会 → 12大学等(産業界) → 4団体(産業界)

### ワーキンググループ

名称	参加校・参加団体の数
特別・産学WG	★金城大・金城短大・金沢工大・国際高等
山田T1T1産学WG	★金城大・金城短大・金城工大・国際高等
単独産学WG	★金沢工大・金城大・金城短大・金城学師大・金沢学師大・金沢学短大・北陸学師短大・北陸学短大・北陸学師大・北陸学短大・金沢学師大・金沢学短大
人文学者産学WG	★北陸学師大・北陸学短大・金城学師大・金城学短大
IT等一歩・企業	★金城学師大・金城学短大・金城学師大・金城学短大
北陸産学WG	★金城学師大・金城学短大・金城学師大・金城学短大
リスキミングWG	★金城学師大・金城学短大・金城学師大・金城学短大
山田T1T1産学WG	★金城学師大・金城学短大・金城学師大・金城学短大
山田T1T1産学WG	★金城学師大・金城学短大・金城学師大・金城学短大

### 18歳人口

特定地域の人口(石川中央都市圏)

### 「学都金沢」ブランドの確立

- 定員充足率 100%
- 公募講座受講生 5倍
- 入学者定員充足率 100%
- 受託・共同・取成研究契約数 120%
- リスキミングプロジェクト対項目 40件
- ブランドランキング 1位

### 主な取り組み事例

地域の課題解決を目指した共同PBL授業運営(計画中)

自治体が抱える課題を共有し、各大学等・共同授業によるPBL活動を通じて課題解決授業を行う。授業発表後は研究や課外にて実践活動を行う。

### 質の高い特色ある教育の実施

- IoT/ICTを活用した遠隔授業による単位互換の整備(計画)
- テレビ会議・VR・アバターなど、IoT/ICTを活用した遠隔授業を行い、所属大学等に居ながらリアルタイムに他大学の多分野の学習できる環境を整備。夏季や春季の長期休業期間を利用した集中講義科目開講から共同運営を検討。

### 国際教養課程(仮)による共通授業・単位修得制度(計画)

各大学等の教養科目の一部を共有したり、単位互換/単位認定を行うことで、学びの幅を広げ、多様な知識を有する人材を育成する。

### 主な取り組み事項

- 教育の質向上に向けた各大学等の資源の共有化ならびに集中にすること
- 異なる専門分野の連携による新たな価値創造に取り組むこと
- 類似する専門分野の連携による強みの相乗効果による質向上を図ること
- 石川県内への進学への促進に関すること
- 初等中等教育機関との連携および協力に関すること

1

## 2. 令和2（2020）年度の事業計画と目標値および実績

全国 18 歳人口*	117 万人				
石川県 18 歳人口*	11,062 人				
取組内容	2020 年度 活動計画	活動指標	2020 年度 目標値 ※比は 2018 年度比	2020 年度 実績	担当WG
①教育の質向上に向けた各大学の資源の共有化ならびに集中に関すること	・共同型 PBL 運営のための大学間意見交換 ・単位互換のための情報収集	1 協定校(大学・短大・高専・大学院) <u>定員平均充足率</u> [在籍者数/収容定員数]	1.00 (2021.5.1)	0.96	共同 PBL 検討 WG
		2 協定校(大学・短大・高専・大学院) <u>年間除籍・退学者数の合計</u>	535 人 (95%) (2021.3.31)	538 人	単位互換 検討 WG
②類似または異なる専門分野の連携による新たな価値創造に関すること	・大学間連携・企業・自治体マッチングのための基盤整備 ・社会実装型研究活動の推進	3 地元企業と協定校による <u>受託・共同・助成の年間合計契約数</u>	80 件 (105%) (2021.3.31)	85 件	専門連携・産学連携 検討 WG
③「学都金沢」ブランドを発信し、石川県内への進学促進に関すること	・大学間連携体制の構築 ・大学コンソーシアム石川と連携した広報活動実践 ・共有 HP の公開・情報更新	4 協定校(大学・短大・高専・大学院) <u>年間受験者数(のべ)の合計</u>	26,149 人 (105%) (2021.3.31)	23,970 人	入学者 促進 WG
		5 協定校(大学・短大・高専) <u>県内・県外年間入学者数の割合</u>	県内: 県外 = 47:53 (2021.5.1)	51:49	
		6 協定校(大学・短大・高専) <u>入学募集定員平均充足率</u> [入学者数/募集定員]	1.00 (2021.5.1)	0.93	
④企業・地域住民の主体的な学びを可能とする、多様な学習機会の創出に関すること	・対象別の各大学の提供科目、公開講座等の調査 ・告知、募集に関する企画	7 <u>複数の協力校</u> (大学・短大・高専)による <u>小中高校生向けの公開講座等の年間開講件数</u> ※共通設問 26 に準ずる	2 件 (2021.3.31)	0 件	小中校・一般・企業向け学習 支援 WG
		8 <u>複数の協力校</u> (大学・短大・高専)による <u>社会人科目等履修生登録および公開講座受講年間のべ人数</u> ※共通設問 27・28 に準ずる	科目等履修生 63 人 開講座受講者 4,810 人 (150%) (2021.3.31)	科目等履修生 93 人 開講座受講者 542 人	
⑤地元企業の人材確保に関すること	・産業界との意見交換・連携体制の構築 ・産業界のニーズ調査	9 協定校(大学・短大・高専)の卒業生に対する <u>地元就職者の割合</u> [石川県内就職者数/卒業者数]	40%以上 (2021.3.31)	45%	地元就職 促進 WG
⑥リスクマネジメントに関すること	・石川中央都市圏との連携体制の構築	10 リスクマネジメントにおけるリスク対応項目数(累積)	10 個 (2020.3.31)	8 個	リスクマネジメント 検討 WG
⑦共同 FD/SD に関すること	・教育・研究・サービス等の情報の共有化	11 共同 FD/SD 年間開催回数	4 回 (2021.3.31)	3 回	共同 FD/SD 事業 WG
⑧共同 IR に関すること	・各大学の基本データの共有と分析	12 共同 IR によるファクトブックの年間報告回数	1 回 (2021.3.31)	1 回	共同 IR 事業 WG

(ワーキンググループ担当一覧)

検討・運営WG	担当校 (★は取りまとめ校)
共同PBL運営検討WG	★金城大・短大、金沢工大、国際高専
単位互換検討WG	★金沢工大、金城大・短大、国際高専
専門連携・産学連携研究促進WG	★星稜大・短大、金沢学院大・短大
入学者促進WG	★北陸学院大・短大、北陸大、金沢医科大
小中高・一般・企業向け学習支援WG	★北陸大、北陸学院大・短大、金沢医科大
地元就職促進WG	★金沢学院大・短大、星稜大・短大
リスクマネジメント検討WG	★金沢医科大、金沢工大
共同FD／SD 事業WG	★幹事校（金沢工大）、全大学等
共同IR事業WG	★幹事校（金沢工大）、全大学等

3. 令和2年度 事業実績  
(1) 全体

取組内容	全体	① 取組の意向に合わせた各大学の協力の確保の進捗状況	② 取組の進捗状況	③ 「学研金沢」プロジェクト推進、石川県内の各大学等に協力を要請すること	④ 企業、地域の協力を主体的に呼びかけ、可能な範囲で実施すること	⑤ 地元企業の人材確保に関すること	⑥ リスクマネジメントに関すること	⑦ 共同FD/SDに関すること	⑧ 共同IRに関すること
WG	共同PBL運営検討WG * 金沢大、短大								
取組の主体	幹事校 (金沢工業大学) 懇話会委員、運営委員会 企画調整委員会								
担当	金沢大、国際高専	金沢大、短大、国際高専							
4月		(コン)単位互換・オンライン履修							
5月									
6月									
7月	R-2_第1回企画調整委員会 (大学等 担当者)	* コロナによる受入対応→中止決定							
上									
8月		進学支援セミナーオンライン意見交換 (中間発表)							
下	R-2_第2回企画調整委員会 (大学等 担当者)	P、B、Lオンライン講座(学研金沢)の開催～みんなで考える学びの大学～							
上									
9月	R-2_第1回運営委員会 (大学等、自治体・産業界 担当者)	(コン)単位互換・オンライン履修							
中									
下	R-2_第1回懇話会決定委員会 (大学等、自治体・産業界 代表者)	担当校間の打ち合わせ							
上									
10月									
中									
下	R-2_第3回企画調整委員会 (大学等 担当者)								
上									
11月									
中									
下									
上									
12月									
中									
下									
上									
1月									
中									
下									
上									
2月									
中									
下									
上									
3月									
中									
下									
4月									
5月									
6月									
7月									
8月									
9月									
10月									

(1) 5 当初の計画を踏まえ、目標を上回る顕著な成果が得られている。【A】当初の計画を踏まえており、目標に対し十分な成果が得られている。【B】当初の計画を踏まえており、目標に対し十分な成果が得られている。【C】当初の計画を踏まえており、目標に対し十分な成果が得られている。【D】当初の計画を踏まえており、目標に対し十分な成果が得られている。【E】当初の計画を踏まえており、目標に対し十分な成果が得られている。【F】当初の計画を踏まえており、目標に対し十分な成果が得られている。【G】当初の計画を踏まえており、目標に対し十分な成果が得られている。【H】当初の計画を踏まえており、目標に対し十分な成果が得られている。【I】当初の計画を踏まえており、目標に対し十分な成果が得られている。【J】当初の計画を踏まえており、目標に対し十分な成果が得られている。【K】当初の計画を踏まえており、目標に対し十分な成果が得られている。【L】当初の計画を踏まえており、目標に対し十分な成果が得られている。【M】当初の計画を踏まえており、目標に対し十分な成果が得られている。【N】当初の計画を踏まえており、目標に対し十分な成果が得られている。【O】当初の計画を踏まえており、目標に対し十分な成果が得られている。【P】当初の計画を踏まえており、目標に対し十分な成果が得られている。【Q】当初の計画を踏まえており、目標に対し十分な成果が得られている。【R】当初の計画を踏まえており、目標に対し十分な成果が得られている。【S】当初の計画を踏まえており、目標に対し十分な成果が得られている。【T】当初の計画を踏まえており、目標に対し十分な成果が得られている。【U】当初の計画を踏まえており、目標に対し十分な成果が得られている。【V】当初の計画を踏まえており、目標に対し十分な成果が得られている。【W】当初の計画を踏まえており、目標に対し十分な成果が得られている。【X】当初の計画を踏まえており、目標に対し十分な成果が得られている。【Y】当初の計画を踏まえており、目標に対し十分な成果が得られている。【Z】当初の計画を踏まえており、目標に対し十分な成果が得られている。

## ①共同PBL 運営検討WG 事業報告

金城大学・金城大学短期大学部  
金沢工業大学・国際高等専門学校

### 1. 令和2年度の活動目標

- (1) 定員充足率 1.00 (2021/5/1)
- (2) 年間除籍・退学率 535人 (2021/5/1)
- (3) 令和3年度に向けて具体的な共同PBL授業の策定

### 2. 令和2年度の活動計画

- (1) 各自治体、商工会議所等へのPBL授業の説明と協力依頼
- (2) 現在各校で実施されているPBL授業の詳細及び参加の可能性の確認
- (3) 共同PBL授業の試行
- (4) 共同PBL授業の策定

### 3. 令和2年度 事業実績・活動結果

今年度は新型コロナウイルス禍の下、実際に訪問したり、対面で打合せを行ったりすることがたいへん難しい1年であった。実際のところ、活動を狭くせざるえない状況であった。その中で、本学が所在する白山市及び白山商工会議所を訪れ、PBL授業について説明し、協力依頼を行った。しかし、予定はしていたが、本プラットフォームを構成している他の自治体、商工会議所への訪問、説明ができなかった。同様に、他大学との意見交換もできなかった。

共同PBL授業については、金沢工業大学で、「学都圏”いしかわ”創成～みんなで考えるジブンの大学～」というPBL授業をオンラインで8月24日から28日にかけて実施した。最終日の28日には共同オンラインFD研修として、成果発表会に他の大学の教職員、PF構成経済団体、自治体等の方が参加した。また、金城大学短期大学部で実施している産学連携ゼミナールでは、8月5日の中間発表会およびその最終発表会となる2月10日の金城ビジネス学会をリモートで開催した。ここには金沢工業大学、白山商工会議所など他大学や関係経済団体、企業、自治体等からも参加いただき、質問、コメントなどを通して、これまでの学生の学習成果を相互に確認することができた。この二つの試みは、コロナ禍ということでオンライン授業としたが、距離的に離れた各大学がオンラインを利用することでオンタイムの授業を行えることが実証され、今後の展開につながった。

こうした中で、白山商工会議所より、「地元企業への就職を推進することについて、学生目線からの提案を行ってほしい。」との依頼があった。地元企業の人材確保については、本PFの目標の一つでもあり、出身地、性別、学校種、専門などが異なる学生からの提案は、企業側からの目線と異なった新しい気づきがあるものと期待できる。

### 4. 事業評価（自己評価）

評価：B（当初の計画をほぼ実行できているが、一部に遅延、未達等の取組があり、目標の達成に継続した努力が求められる。）

理由：各大学、自治体、経済団体等と十分に意見交換ができず、多くの意見を聴取することができなかったが、共同PBL授業のテーマを得ることができた。また、オンラインを利用することで、共同で行うPBL授業が可能であることが、明確になり、今後、具現化することが目に見えてきた。

以上

## ②単位互換検討WG 事業報告

金沢工業大学・金城大学・  
金城大学短期大学部・国際高等専門学校

### 1. 令和2年度の活動目標

- (1) 定員充足率 1.00 (2021/5/1)
- (2) 年間除籍・退学率 95% 535人 (2021/5/1)  
→上記2事項を達成するために
  - ・単位互換に関するメディア発信 2件以上
  - ・共同運営・単位認定・単位科目 合計4科目以上

### 2. 令和2年度の活動計画

- (1) 他大学の科目の受講により自大学内で他大学科目として認定する「単位認定協定」の制度設計と締結の推進
- (2) 他大学の科目を自大学の科目として読み替える「単位互換」に向けた制度設計と締結の推進]
- (3) 遠隔授業による類似科目の共同運営の調整・運営に係る事務手続き等の推進

### 3. 令和2年度 事業実績・活動結果

令和2年度活動基本計画に基づき、他大学の科目を自大学の科目として認定する「単位認定協定」の整備を進めていたが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、相互に他大学生の入構禁止措置を講じたため、オンラインで参加できる科目を再設定する必要となった。これに伴い、単位認定協定に関する内容についても再検討する必要があり、継続して調整中である。

定員充足率	1.00 (2021/5/1)	→	0.96
年間除籍・退学者数	535人 (2021/5/1)	→	538人
単位互換に関するメディア発信	2件以上	→	0件
共同運営・単位認定・単位科目	合計4科目以上	→	2科目

### 4. 事業評価（自己評価）

評価：C（当初の計画について半数以上の取組について未達であり、取組や目標に関して一定の見直しが必要である。）

理由：新型コロナウイルス感染拡大により、自大学の正規授業の運営対策が急務となり、担当校それぞれが単位認定に向けた制度設計に関する業務の優先度を高めることができなかった。そのため、当初設定した目標値を達成することが難しい状況である。また、退学者数は目標値を上回ったが、コロナによる高校生の進学希望エリアの変化から、目標値を下回った。

一方、単位互換については、スモールスタートではあるが、2科目の互換科目を提供する事ができた。メディアに取り上げられることが無く、さらに履修手続き等の事務手続きにおいては課題があり、今後担当校間での更なる調整が必要である。

また、新型コロナ感染拡大により、各大学のオンライン授業が急速に進んだことにより、大学間の距離や移動のための時間といった大きな弊害が解決する見通しが立ちそうである。オンライン授業による相互の受け入れについては、双方で遠隔授業実施環境に差があるなど、科目精査・運営体制の再調整が必要となる。これを機に、各大学間のオンライン授業の環境を整え、次年度にはオンライン・ハイブリッドでの授業で単位互換ができる環境を目指したい。

以上

### ③専門連携・産学連携研究促進WG 事業報告

金沢星稜大学大学・金沢星稜大学女子短期大学部  
金沢学院大学・金沢学院短期大学

#### 1. 令和2年度の活動目標

- (1) 受託・共同・助成の年間合計契約数 105% 80件 (2021/3/31)

#### 2. 令和2年度の活動計画

- (1) 高等教育機関の共同研究事業の取りまとめと把握  
(2) 産業界、自治体との意見交換  
(3) 「住みやすさ」に関する産学官連携による社会実装型研究活動の推進

#### 3. 令和2年度 事業実績・活動結果

昨年度実施した産学官連携に関する共同研究及び連携事業等の実績調査に基づき、各大学の現状把握と今後の当該事業推進について協議を行った。

また、実績調査結果からも産学連携にかかる共同研究及び連携事業等の仕組みが整っている金沢工業大学と金沢医科大学に講師をお願いし、産学官連携研究促進に向けた勉強会を開催した。

○10月2日(金) 実績調査に基づく現状把握と今後のWG事業推進にかかる協議(オンライン)  
<実績調査項目>

- (1) 産学官連携を専門的にマネジメントする学内組織について  
(2) 貴学における2019年度の産学連携の取組の現状(県内産業界・県外産業界)  
共同研究、奨学寄付、受託研究  
(3) 他の高等教育機関と実施している共同研究や連携事業(学学)はあるか  
共同研究、連携事業  
(4) 産業界・地方自治体と実施している共同研究や連携事業(産学官)はあるか  
共同研究、連携事業  
(5) 産業界との連携において、意見やニーズをどのように発掘しているか  
(6) 産学官連携を進めている上での課題

○1月22日(金) 勉強会並びに今後のWG事業推進にかかる協議(オンライン)  
<勉強会>

講師 金沢工業大学 林様、松井様  
金沢医科大学 高田様

内容 ・各大学の取り組みやコーディネーターの働き  
・共同研究や奨学寄付あるいは受託研究などの件数獲得の秘訣  
・各大学の特色を生かした学外への発信などの手法

#### 4. 事業評価(自己評価)

評価: B(当初の計画をほぼ実行できているが、一部に遅延、未達等の取組があり、目標の達成に継続した努力が求められる。)

理由: 「住みやすさ」に関する産学官連携という点で、今年度は大学間の勉強会と併せ自治体又は産業界の方々との意見交換会等を行う予定であったが、スケジュールの都合上実施できなかった。

令和3年度については、本PFに参画されている自治体より、住みやすいまちづくりをどのように実現しているか、また、地元地域に根ざす産業界より、産学連携研究促進に向けてどのような連携協力ができるのかなどについて、意見交換等を実施する予定である。

以上

## ④入学者促進WG 事業報告

北陸学院大学・北陸学院大学短期大学部  
北陸大学・金沢医科大学

### 1. 令和2年度の活動目標

- (1) 年間受験者数（のべ）の合計 105% 26,149人（2021/5/1現在）
- (2) 県内・県外年間入学者数の割合 県内：県外＝47：53（2021/5/1現在）
- (3) 入学募集定員平均充足率 1.00（2021/5/1現在）

### 2. 令和2年度の活動計画

- (1) 令和2（2020）年度 大学コンソーシアム石川での共同学生募集（追認事業：広報事業・石川県高大連携セミナー事業・出張オープンキャンパス事業・学都石川情報発信事業・文化系芸術祭）
- (2) 私大等PF県外出身者学生アンケート検討
- (3) WG連携
- (4) 各種データ分析

### 3. 令和2年度 事業実績・活動結果

- (1) 令和2（2020）年度 大学コンソーシアム石川での共同学生募集  
→新型コロナウイルスの関係から、開催中止になった事業もある。進学説明会を対面式説明会からオンライン説明会に変更し、実施した。
- (2) 私大等PF県外出身者学生アンケート検討  
→アンケート項目の検討を2月末までに実施予定であるが、遅延している。
- (3) WG連携  
→協力・連携による本PFの魅力発信までには至らなかった。
- (4) 各種データ分析  
→データ集計を行い、各大学へ情報共有した。更に検討を深化させ、2021年度入学者の分析を引き続き行っていく。

### 4. 事業評価（自己評価）

評価：B（当初の計画をほぼ実行できているが、一部に遅延、未達等の取組があり、目標の達成に継続した努力が求められる。）

理由：新型コロナウイルス感染拡大に伴い、第1四半期は余儀なく活動は中止になったが、その後徐々に再開している。一部中止や遅延もあるが、予定していた学生の出身地分析等を完了することができた。

一方で、今年度はコロナ渦の影響が大きいことが考えられるため、経年的な分析を継続するとともに、更に分析を深化させていきたい。

以上

## ⑤小中校・一般・企業向け学習支援 WG 事業報告

北陸大学・金沢医科大学  
北陸学院大学・短期大学部

### 1. 令和2年度の活動目標

- (1) 複数の協力校による(大学・短大・高専)による小中高校生向けの公開講座等の開講  
→2件
- (2) 社会人科目等履修生登録及び公開講座受講年間のべ人数  
→科目等履修生登録者数 63人(2018年度の150%)  
→公開講座受講年間のべ数 4,810人(2018年度の150%)

### 2. 令和2年度の活動計画

- (1) 大学間連携事業の企画運営
- (2) 複数の協力校による(大学・短大・高専)による小中高校生向けの公開講座等の企画・開講
- (3) 複数の協力校による(大学・短大・高専)による社会人科目等履修生対象の公開講座の企画・開講

### 3. 令和2年度 事業実績・活動結果

北陸大学にて複数大学による共同講座の素案を作成し、令和2年12月21日にオンラインにてWGの打ち合わせを行った。打合せの結果、令和2年度については、まずは第1歩として「Withコロナ時代の健康管理」をメインテーマとして、各加盟校と連携の上、一般・社会人向けの共同講座(4講座)をオンラインにて実施することとして、各大学等に講座提供の依頼を行ったところである。なお、小中高生向けの講座については、講座企画を行っているものの対面での実施が想定されることから実施方法を含め、詳細を検討の上、次年度に実施する予定である。

各加盟校の科目等履修生登録者数及び公開講座受講年間のべ数は、年度明け以降の集計となるが、コロナ禍において公開講座の実施が見送られている大学等もあることから、目標数達成は難しいと推察される。

### 4. 事業評価(自己評価)

評価：B(当初の計画をほぼ実行できているが、一部に遅延、未達等の取組があり、目標の達成に継続した努力が求められる。)

理由：当初の計画に対してスケジュールが全体的に遅延している、又は未達の取組があるが、目標達成に向けて活動を行っている。今後、新型コロナウイルス感染症拡大の状況を踏まえながら、事業実施に向けて活動を活発化させていく必要があると認識している。

以上

## ⑥地元就職促進WG 事業報告

金沢学院大学・金沢学院短期大学  
金沢星稜大学・金沢星稜大学女子短期大学部

### 1. 令和2年度の活動目標

- (1) 現状の把握（直近2ヵ年の地元就職率・地元就職促進のための取組事例）
- (2) 産業界との意見交換・連携体制の構築
- (3) 協定校(大学・短大・高専)の卒業生に対する地元就職調査  
・令和2年度目標値 45%

### 2. 令和2年度の活動計画

- (1) 地元就職に関する協定機関へのアンケート調査の実施
- (2) 産業界のニーズ調査
- (3) 学生に対する就職アンケート調査
- (4) 各種データ分析

### 3. 令和2年度 事業実績・活動結果

- (1) 令和2年度の活動基本計画に基づき、PF協定校に対して「直近2カ年の地元就職率」及び「地元就職促進のための取組み事例」の調査を行った。その調査結果については協定校に報告を行った。
- (2) 産業界のニーズ調査については、アンケート項目の整理ができておらず、現段階ではニーズ調査を実施できていない。令和3年度には実施したいと計画している。
- (3) 学生に対する就職アンケート調査について、3月から就職活動スタート時に新型コロナウイルスの感染が拡大しはじめ、就職アンケートの調査時期を逸することとなった。令和3年度の就職活動は3月1日に解禁となるが、現状でもWEB面談などの状況が続いており、調査時期は未定と言わざるを得ない。
- (4) 各種データ分析については、現状で十分なアンケート調査が収集できておらず、満足な分析ができていない。令和3年度も未定であるが、できる限りアンケート調査を行いたい。

### 4. 事業評価（自己評価）

評価：C（当初の計画について半数以上の取組みについて未達であり、取組みや目標に関して一定の見直しが必要である。）

理由：昨年2月頃からの新型コロナウイルスの感染拡大により、就職活動がWEB説明会やWEB面談に切り替わるなど、学生の就職を取り巻く環境が激変した。大学で行ってきた企業説明会なども中止とせざるを得ない状況が続いている。コロナ禍の中で企業の収益環境の変化、業務内容の見直しが考えられることから、新型コロナウイルスが概ね終息した後の企業の就職動向を調査するなど、活動に対する一定の見直しを行う必要があると考えている。

以上

## ⑦リスクマネジメント検討WG 事業報告

金沢医科大学・金沢工業大学

### 1. 令和2年度の活動目標

- (1) リスクマネジメントにおけるリスク対応項目数（累積） 10 個

### 2. 令和2年度の活動計画

- (1) 「石川中央都市圏ビジョン(改訂版)」に掲載されている災害対策と本 PF 連携校との具体的な連携を図るため、災害や防災等に関するマネジメント・活動指針の作成を目指す。

### 3. 令和2年度 事業実績・活動結果

- ・各連携校への照会を踏まえた「危機的事象の分類表」（修正版）を共有した。
- ・自治体と連携した災害・防災訓練実施等に向けた学内検討を行った結果、コロナ禍等の事情により今年度は学内実施に留めることとした。
- ・各連携校が保持する災害や防災、新興感染症等に関する活動指針の共有可否等調査を行い、取りまとめを共有資料とした。
- ・「災害時における大学職員の役割」（高等教育コンソーシアム久留米 SD 研修会）に参加し、本 WG として各連携校へ資料共有及び概要報告した。その結果、有事の際に大学が果たすべき役割機能が重要であることが共通認識となった。
- ・「休校措置対応マニュアル（各大学活用版）」、「授業中大地震初動対応マニュアル（各大学活用版）」を共有し、各大学の事情に合わせて活用できるよう促した。

### 4. 事業評価（自己評価）

評価：B（当初の計画をほぼ実行できているが、一部に遅延、未達等の取組があり、目標の達成に継続した努力が求められる。）

理由：自治体と連携した災害・防災訓練の実施及び当該 FD/SD に係る見学会の開催に向けて検討したものの、実現には至らなかった。それに代わる事例紹介等として、SD 研修会の参加報告を実施した。

また、今年度は災害や防災等に関する活動指針（案）の作成が計画されているが、各大学の事情等により扱いが困難となることが予測される。このため、「休校措置対応マニュアル」等の個別状況を想定した対応マニュアルを積み上げていくことで、不測の事態に強い体制の確保を図る方向で調整を開始した。

なお、新型コロナウイルスの動向が未だ読めない部分もあるが、次年度は小規模なりとも自治体と連携した災害・防災訓練の実現に向けて検討したい。

以上

## ⑧共同FD/SD事業WG 事業報告

金沢工業大学・ 全大学等

### 1. 令和2年度の活動目標

(1) FD/SD 研修の実施 4回

### 2. 令和2年度の活動計画

- (1) 各大学からのニーズに合わせたFD/SD研修を企画 (PF校以外へのオープンな研修会)
- (2) テーマ: PBL、データサイエンス基礎、遠隔授業運営、その他
- (3) 研修後のアンケートの統一

### 3. 令和2年度 事業実績・活動結果

(1) FD/SD 研修の実施 3回

回	日にち	区分	テーマ	場所	人数
1	8月26日	FD	次々世代のPBL研究発表意見交換	Zoom (金沢工大)	87
2	10月16日	FD	教学マネジメントの確立に向けて -山形大学におけるIR/IEの取組から-	Zoom (北陸大学)	23
3	12月22日	FD	オンライン学習の大学の現場 ① (北陸大学) 北陸大学におけるオンライン教育の取り組み ② (金沢医科大学) コロナ禍中の学生指導: 金沢医科大学第一学年の取り組み ③ (金沢星稷大学・短期大学部) コロナ禍のオンライン国際交流 -海外に行けない今だからこそできること- ④ (金沢工業大学) コロナ禍における反転授業の事例紹介 -シニアTA・シニアSA・臨時チューターによるアクティブラーニングの実践-	Zoom (金沢工大) YouTube 限定配信	97 のべ405

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、オンラインによるFD/SDを実施した。教育の現場では、オンラインによる授業運営や学生支援方法における課題が山積し、他大学の取り組みや意見交換を求める声が多かった。また、教育現場においてもDXが求められており、データを活用した授業改善(IR/IE)についても興味関心があることがうかがえた。

### 4. 事業評価 (自己評価)

評価: B (当初の計画をほぼ実行できているが、一部に遅延、未達等の取組があり、目標の達成に継続した努力が求められる。)

理由: 新型コロナウイルス感染拡大に伴い、オンラインによるイベントの実施が可能となった。これにより研修に参加しやすい環境になった。今年度のテーマは比較的興味深い内容が多く、参加者は多かった。予定よりも実施回数が少なかったが、大学間の情報交換を楽しみにしている声が多く聞かれており、次年度も継続して、現場の教職員の興味深いテーマで実施していきたい。

以上

## ⑨共同 I R事業WG 事業報告

金沢工業大学・全大学等

### 1. 令和2年度の活動目標

- (1) 学都金沢ブランド力向上に向けた本 PF 内の大学等のデータ分析
- (2) データを活用した事業改善提案

### 2. 令和2年度の活動計画

- (1) 各大学の基本データの調査
- (2) 教学データの項目検討・調査
- (3) 遠隔授業の満足度調査
- (4) その他

### 3. 令和2年度 事業実績・活動結果

本年度は基本データ集 (①) に加え、②～④に関する情報を取りまとめた。特に③④については、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、情報共有を行うことができ、各大学が他大学の好事例を参考に教学運営を行うことができた。

- ①令和2年度私大等 PF 基本データ集の取りまとめ (大学基本データの調査・分析) (5月)
- ②各大学等の教員免許・各種資格の調査、大学ランキング (朝日新聞社出版) の調査・分析 (5月)
- ③新型コロナウイルス感染防止対策の状況 (7月)  
※企画調整委員会メンバーの座談会 (12/10, 1/25, 2/10) においても、コロナへの対応策や学事運営
- ④遠隔授業の満足度調査 (11月)

### 4. 事業評価 (自己評価)

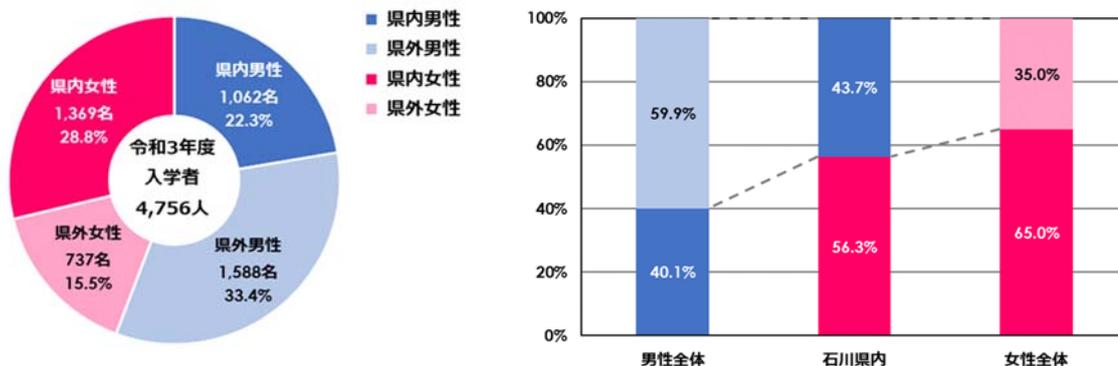
評価：A (当初の計画を着実に実行してきており、目標に対し十分な成果が期待できる。)

理由：5月1日の大学基本情報の他に各大学の教員免許・各種資格の調査、大学ランキングの状況を取りまとめた。また、遠隔授業の満足度ならびに各大学のコロナ対応に関する情報をまとめることができた。教学データに関しては、今後共同 PBL や単位互換の推進と共に調査を行うことができるので、関係 WG と調整しながら検討したい。

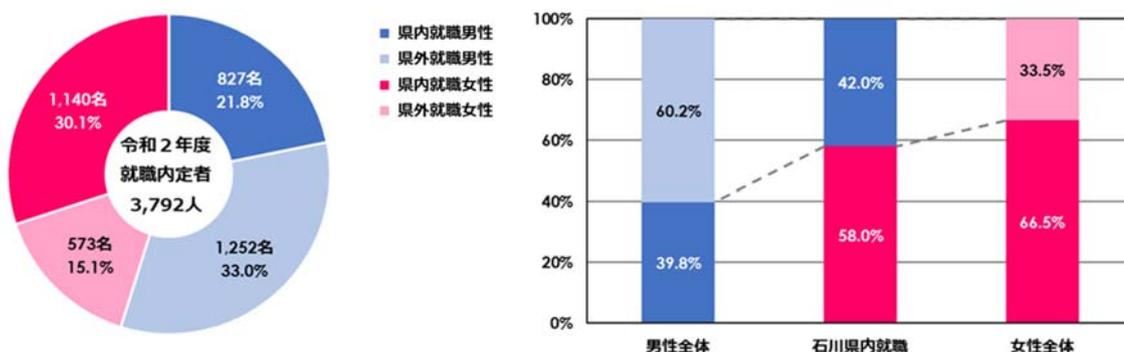
以上

#### 4. IR データ（抜粋）

(1) 入学者状況（2021年度入学者数：令和3年5月1日時点）



(2) 就職状況（2020年度終了時：令和3年3月31日時点）



(3) その他（私大等 PF 協力校の合計：令和3年3月31日または5月31日時点）

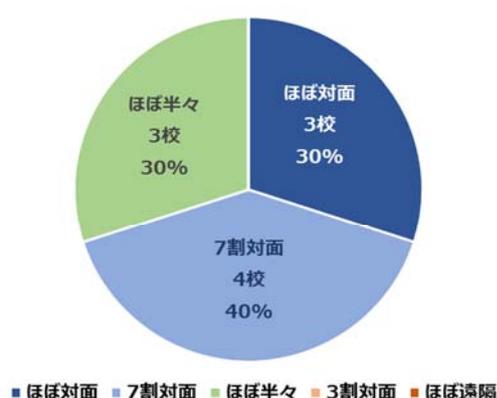
項目	2020年度実績
1 受託・共同・助成契約数（対象：石川中央都市圏内）	85件
2 2021年度入試 受験者数（のべ）	23,970人
3 科目等履修生登録者数（学部卒以上・その他）	93人（66人・27人）
4 公開講座受講者数（のべ）	542人

(4) 遠隔授業について（令和2年度の後期等の授業実績（9月～11月30日の状況））

① 後学期授業開講中の実態形態



② 対面授業・遠隔授業を併用する割合



5. 自己評価と達成目標・実績 (2020. 4. 1～2021. 7. 31)

■中長期計画に対する自己評価

全体評価

**B**

S：当初の計画を超え、目標を上回る顕著な成果が得られている。

A：当初の計画を着実に実行できており、目標に対し十分な成果が期待できる。

**B：当初の計画をほぼ実行できているが、一部に遅延、未達等の取組があり、目標の達成に継続した努力が求められる。**

C：当初の計画について半数以上の取組について未達であり、取組や目標に関して一定の見直しが必要である。

D：当初の計画を大幅に下回っており、目標の達成見込みがないため、計画に関する抜本的な見直しが必要である。

評価理由

2020年度は、年明けより世界的な新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、未曾有の混乱状態であった。各大学は感染拡大防止策に追われ、自大学の学生支援、授業運営、学事運営等の喫緊の課題対策が優先となり、第1四半期はプラットフォームとして活動は不可能な状態であった。政府による全国的な緊急事態宣言が解除され、少しずつ落ち着きを取り戻された7月より、各大学のコロナ対応の状況などの情報交換を行いながら、3か月遅れでプラットフォームとしての活動をオンラインで限定することから始めた。

しかし、その後も何度となく地域内での感染拡大が繰り返され、まん延防止対策が都道府県単位で発令されるなど、その度に大学の授業運営や学生の活動は制限を余儀なくされた。事業は一部で遅延や未達のみられるものの、オンラインを中心としてほぼ当初の計画に基づいた活動ができている。2020年12月にはFD研修としてオンライン授業の事例を共有し、各大学の授業の実施方法や学生の学習状況について情報を提供しあった。2021年6月にはオンラインでシンポジウムを開催し、地域からの本プラットフォームへの期待の声も多く聞かれた。さらに7月には文部科学省のシンポジウムにも招待され、全国的にも本プラットフォームが他の地域の参考事例として認められたことは、これまでの活動の成果といえる。他地域のモデルとなったことも含めて、目標達成に向けたより継続した努力が必要である。

また、自治体・産業界との連携については、未だ具体性が十分とはいえない。コロナ感染拡大防止により意見交換も不十分などところもあるため、より具体性を果たした議論を行い、事業を推進することが望まれる。大学から自治体・産業界にアプローチし、本PFの特色を地域で活用できるような継続した努力が必要である。

評価に関する備考 (考慮すべき事項)

一般のコロナ禍において、オンライン授業が大きく進展した。大学コンソーシアム石川も含めて、大学間の連携による教育 (例：共同運営授業、単位互換に伴う授業の実施等) の最大の課題であった「時間と場所を超えた教育の実施」がここ数年で日常的なものになると思われる。このことは私大等PFにとっては、チャンスとも言えるため、中長期計画を愚直に取り組むことが「学都金沢」の実現につながる言える。

また、大学にとって新型コロナウイルスの陽性者やクラスター発生は、大学名の公表を求められるなど社会的に影響が大きく、感染拡大防止に向けて、授業運営調整、遠隔授業への対応・環境整備、消毒対応、学生や保護者への説明などの、これまでの授業運営業務に加えた業務負荷が多様に求められている。新しい生活様式に合わせた「新しい大学生生活の在り方」についてはまだまだ十分に基盤ができているとは言えず、プラットフォームの事業全体の遅延は考慮すべきところが多々あると思われる。

さらに、各大学でオンライン環境整備状況が異なるため、一律に各大学が同条件とは言えない部分もある。また学生の「オンライン疲れ」も出てきており、三密を回避した事業運営にも、各大学の状況を加味する必要があり、事業によって進捗の温度差がある点は考慮すべきであると考えられる。

■達成目標・活動指標等 (2020.4.1～2021.5.1)

課題	達成目標	課題を解決する取組概要	活動指標	実績	評価・備考
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 18歳人口減少による入学定員の確保</li> <li>● 多分野集結の学園都市「学都金沢」の優位性の活用</li> <li>● 大学コンソーシアム石川の中の私大の多様性・独自性の発揮</li> <li>● 特定地域の活性化</li> <li>● 専門性を活かした地域課題の解決への貢献</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定員充足率 1.00</li> <li>・ 各大学の資源の共有化ならびに集中による「国際教養課程」の設立準備および試行</li> <li>・ 産学官金民一体となった推進(石川中央都市圏ビジョンの達成)</li> <li>・ 石川中央都市圏の「住みやすさ」ランキングの向上</li> </ul>	<p>(取組1) 教育の質向上に向けた各大学等の資源の共有化ならびに集中すること</p> <p>(取組2) 類似または異なる専門分野の連携による新たな価値創造に関すること</p> <p>(取組3) 「学都金沢」ブランドを発信し、石川県内への進学促進に関すること</p> <p>(取組4) 企業・地域住民の主體的な学びを可能とする、多様な学習機会の創出に関すること</p>	<p>(取組1の活動指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 在学生の定員充足率</li> <li>・ 年間除籍・退学者数</li> </ul> <p>(取組2の活動指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地元企業と大学等の受託、共同、助成契約数</li> </ul> <p>(取組3の活動指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 受験者数</li> <li>・ 県内・県外の入学割合</li> <li>・ 入学定員充足率</li> </ul> <p>(取組4の活動指標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小中高校生向け公開講座</li> <li>・ 社会人科目等履修生登録者数および公開講座受講人数</li> </ul>	<p>(取組1の活動実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年間除籍・退学者数は昨年度より減少し目標に達したが、在学生の定員充足率は0.96と目標値の1に達することができなかった。</li> </ul> <p>【共同PBL運用】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2019年度から継続して議論してきた共同PBLの試行授業をオンラインにて実施した。</li> </ul> <p>【単位互換運用】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2021年8月モデル校にて1科目ずつ提供科目を提供し合い単位互換を実施した。</li> <li>・ 手続きの簡素化、遠隔通信システムを活用した運営を引き続き検討していく。</li> </ul> <p>(取組2の活動実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 受託、共同研究契約数は目標の80件を超え、85件であった。</li> <li>・ PFの2校から産学連携の取組に関する事例紹介(勉強会)を開催した。</li> <li>・ 次年度に、自治体の長によるまちづくりに関する講演をすることを決定した。</li> <li>・ 産業界と連携については次年度に意見交換を行う。</li> </ul> <p>(取組3の活動実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 受験者数は約2000人不足、入学者は県内&gt;県外、入学定員充足率は0.93と目標に達することができなかった。コロナによる予測不可の影響があったと思われる。</li> <li>・ が「ウェブ」の作成、出張イベントによる合同学校説明会は、対面式からオンラインでの活動となった。</li> <li>・ 県外出身者アンケートが未着である。</li> <li>・ 入学者に関するデータ分析を行い共有した。</li> </ul> <p>(取組4の活動実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 講座開講数0回、科目等履修生数93名、公開講座受講者数542人であり、共に目標に達することができなかった。コロナによる予測不可の影響があ</li> </ul>	<p>B</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>B</p>

				<p>ったと思われる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公開講座のテーマを「With コロナ時代の健康管理」とし、次年度の開講に向けて各校調整を図っている。</li> <li>・ 小中高向けの共同講座開講を実施することができなかった。</li> <li>・ 公開講座。科目等履修生は、コロナ感染拡大の影響を受け、受講者数が減少した。</li> </ul>	
	(取組5) 地元企業の人材確保に関すること	(活動5)の活動指標 ・ 地元就職率		(取組5)の活動実績 地元就職率は目標の40%を超え、45%となった。 ・ 各大学の就職支援状況を確認する調査した。 ・ 産業界、学生向けのアンケート調査を実施することができなかった。	C
	(取組6) リスクマネジメントに関すること	(活動6)の活動指標 ・ 域内のリスク対応項目数		(取組6)の活動実績 目標とする10個の対応はできず、8個に留まった。 ・ 各大学等のリスク対応項目を修正した。 ・ 自治体との合同防災訓練の調整はコロナ対応の観点から取りやめた。 ・ 災害や防災等に関する活動指針(案)作成に向けて、まず大学間で「初動対応フロー」「体校措置対応フロー」の共有をおこなった。	B
	(取組7) 共同FD/SDに関すること	・ 年間開催回数		(取組7)の活動実績 目標の4回は実施することができなかった。 ・ FDおよびSD研修を8月・10月・12月の3回実施した。	B
	(取組8) 共同IRに関すること	・ ファクトブックの年間発行回数		(取組8)の活動実績 各大学の情報を収集し、9月に発行することができた。 ・ 各大学の基本情報(在籍者数・出身・除籍退学・受験者数・就職状況・産学連携・公開講座等)をまとめ、データ集として発行した。またコロナの対策に関する授業の実施状況を取りまとめ、FD研修会で共有を図った。	A

## ■参加大学等一覧

大学等名	住所	担当部署
金沢医科大学	〒920-0265 石川県河北郡内灘町大学1丁目1番地	学事部 076-286-2211（内線2411）
金沢学院大学	〒920-1392 石川県金沢市末町10	財務部 076-229-8817
金沢学院短期大学	〒920-1392 石川県金沢市末町10	財務部 076-229-8817
金沢工業大学 （2020・2021年度 幹事校）	〒921-8501 石川県野々市市扇が丘7-1	共創教育推進室 076-294-6740
金沢星稜大学	〒920-8620 石川県金沢市御所町丑10番地1	事務局 076-253-3924
金沢星稜大学女子短期大学部	〒920-8620 石川県金沢市御所町丑10番地1	事務局 076-253-3924
金城大学	〒924-8511 石川県白山市笠間町1200	総務企画部 076-225-3442
金城大学短期大学部	〒924-8511 石川県白山市笠間町1200	総務企画部 076-225-3442
国際高等専門学校	〒921-8601 石川県金沢市久安2-270	事務局 076-248-1080
北陸学院大学	〒920-1396 石川県金沢市三小牛町イ11番地	総合政策課 076-280-3858
北陸学院大学短期大学部	〒920-1396 石川県金沢市三小牛町イ11番地	総合政策課 076-280-3858
北陸大学	〒920-1154 石川県金沢市太陽が丘1-1	産学官・地域連携推進部 076-229-1161

## ■協力自治体

自治体名	住所	担当部署
金沢市	〒920-0962 石川県金沢市広坂1-1-1	都市政策局企画調整課
白山市	〒924-8688 石川県白山市倉光二丁目1番地	企画振興部協働推進課
野々市市	〒921-8510 石川県野々市市三納1丁目1番地	企画振興部企画課
内灘町	〒920-0292 石川県河北郡内灘町字 大学1丁目2番地1	都市整備部企画課

## ■協力産業界

団体・企業名等	住所	会員数
金沢商工会議所	〒920-0918 石川県金沢市尾山町9番13号	5685社
白山商工会議所	〒924-0871 石川県白山市西新町159-2	1616社
野々市市商工会	〒921-8821 石川県野々市市白山町8-16	19社
一般財団法人北陸産業活性化センター	〒920-0981 石川県金沢市片町二丁目2番15号	42社